

平塚市ごみ通信

回 覧

第 18 号

平成28年8月1日発行

発行 平塚市 環境部循環型社会推進課（平塚市浅間町9-1）

TEL : 0463-23-1111（代表）内線：2120

（平塚市のホームページではカラー版を掲載しています）<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/shigen-j/gomi-top.htm>

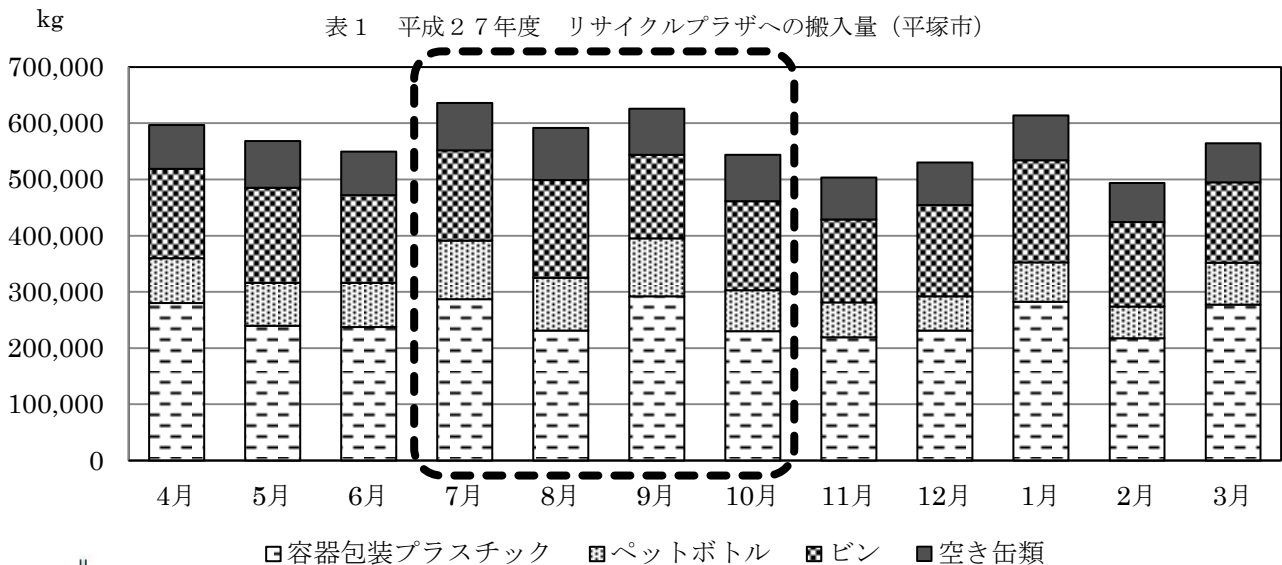
夏季の資源再生物の特徴

リサイクルプラザ【図1】に搬入される資源再生物は「ビン」「空き缶類」「ペットボトル」「容器包装プラスチック」の4種類です。

夏季（7月から10月）は水分を補給する機会が多くなりますので、不要になった容器（ビン、空き缶類、ペットボトル）や容器包装プラスチックの搬入量は冬季と比べ、3割ほど多くなります。【表1】



図1 リサイクルプラザ



なるべく汚れをとってください



図2 手選別の様子

●汚れの除去に御協力ください！

リサイクルプラザに搬入された資源再生物は、職員が手作業で資源再生物とごみに選別します【図2】。汚れたものや不燃ごみ等が混入すると、機械や選別作業に悪影響を与え、除去するために多くの時間が割かれることになります。

夏季は汚れの付着した排出物が増加しリサイクルプラザでの処理が非常に繁忙になります。資源再生物の安定処理のため、引き続き正しい分別と排出にご協力よろしくお願いします。



食品ロスの削減に向けて

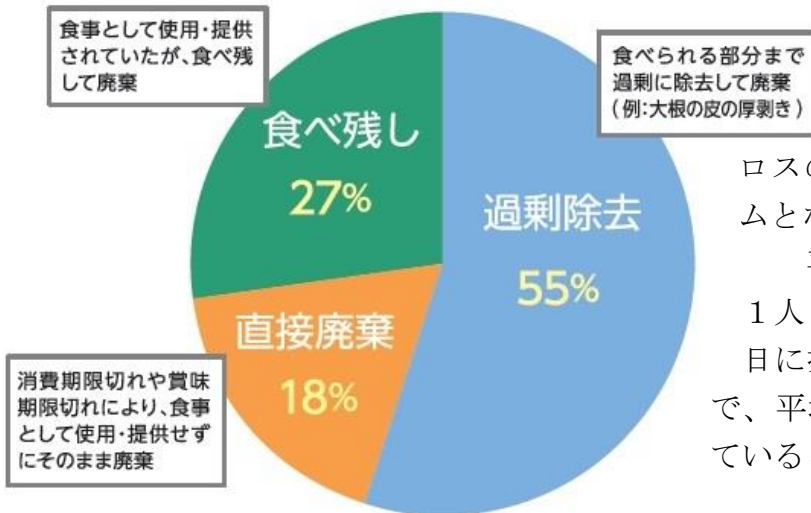
平成28年6月に農林水産省から発表された資料によると、日本では年間2,797万トンの食品廃棄物等が出されています。このうち、食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は632万トン（半分の302万トンは家庭からのもの）と試算されています。

食品ロスの主な内訳は過剰除去が55%と最も多く、食べ残し27%、直接廃棄18%となっています。【図3】

●1人1日あたりの食品ロスの量

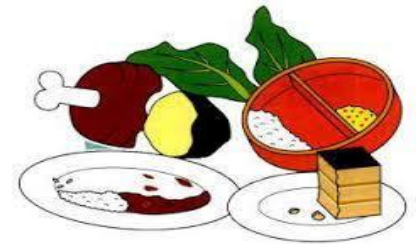
近年の平塚市における可燃ごみの収集量やごみの組成をもとに試算すると、家庭から発生している食品ロスの量は1人1日あたり40～70グラムとなります。

平成24年度に国が推計した数値も、1人1年間あたり24.6キログラム（1日に換算すると67グラム）になりますので、平塚市も同じくらい食品ロスが発生していることがわかります。



出典:農林水産省「食品ロス統計調査・世帯調査(平成26年度)」を基に消費者庁にて作成

図3 家庭における食品ロスの内訳

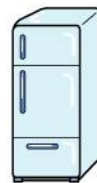


●食品ロスの削減のポイント

必要な量だけを購入して食べきること

出かける前に冷蔵庫の中を確認!

- 必要な食品を必要な時に必要な量だけ購入
- 「賞味期限」と「消費期限」の違いをもとに、すぐに廃棄せず自分で食べられるか判断



食べきれなかった場合は...

- 献立や調理方法を工夫する



【参考】料理レシピサイト

消費者庁のキッチン

検索

ホームページアドレス <http://cookpad.com/kitchen/10421939>

深夜の花火禁止

平塚市さわやかで清潔なまちづくり条例では、午後10時から翌日午前6時までには公共の場所及び地域の静穏を害するおそれのある場所での花火は禁止されています。ご注意ください。

